

第21回高松市中心市街地活性化協議会開催結果

- 日 時 平成 28 年 7 月 28 日（木）10 時から 11 時 30 分まで
- 場 所 高松商工会議所会館 4 階 401 会議室
- 出席者 委員 19 名 ・ 委員代理 1 名 ・ オブザーバー 11 名 ・ 随行者 10 名
- 開催結果



事務局から、会長等は後任者が決定するまで引き続きその職務を行うこととなっている旨を説明した後、植木会長が議長となり議事を進行した。

議題 1 「会長の選任について」を上程し、選任方法について諮ったところ、出席委員から高松大学教授植木英治氏の再任をお願いしたい旨の発言があり、これを議場に諮ったところ植木教授を選任することに全員異議なく承認決定した。

引き続き、植木会長が就任挨拶の後、議長となり、議題 2 「副会長の指名について」を上程し、本件については、規約において会長が指名することになっている旨の説明の後、当協議会設置者である当所高島専務理事及び高松丸亀町まちづくり株式会社専務取締役明石照夫氏を指名し、了承を得た。

次に、議題 3 「監事の選任について」を上程し、選任方法について諮ったところ、出席委員から、議長一任の発言があり、これを議場に諮ったところ全員異議なく賛同を得たので、植木議長は、高松市南部商店連合会会長河合政弘氏及び社会福祉法人高松市社会福祉協議会常務理事川原讓二氏を指名し、了承を得た。

次に、議題 4 「高松南部 3 町商店街の取り組みについて」を上程し、高松中央商店街振興組合連合会の野沢氏から次のとおり説明を受けた。

高松南部バーチャル商店街事業は、アプリを利用して、ことでん瓦町駅から南部 3 町商店街、藤塚・栗林・花ノ宮を通り、栗林公園までのルートを、県外客、外国人観光客、並びに市内の人々が、現地にかかわらずとも高松の商店街をバーチャルで楽しむことができるアプリであり、これまでは旅行雑誌等を購入し、旅行先について調べるという手順をバーチャルソフトでできるというものである。また、現地瓦町周辺に到着してからはスマートフォンを操作すると、各店舗の位置だけでなく町並みを立体的に確認することができるのである。

VR で道案内をしてくれるのは、“ことちゃん”、“ときたま”など各地点のゆるキャラである。各商店街や店舗の情報を提供することで、街の魅力を再発見してもらうことを目的にしている。

外国人対応としては、フリー音声翻訳アプリ「ボイストラ」を使用する予定である。また、外国人客にも分かりやすいよう、アイコンを見れば意味が分かるようなピクトグラムを用いたポスター等も表示予定である。

アプリは、お盆過ぎにアンドロイド版の配信を予定している。iPhone 版は 10 月頃配信予定となっており、秋の瀬戸内国際芸術祭には間に合う予定である。

将来ビジョンとしては、アプリが起動するまでの約 10 秒の間に企業広告をはさみ、その収入をメンテナンス料等に充てて事業を継続していく計画である。

また、現在、事業の名称が高松南部バーチャル商店街と長いため、“VR Town in Takanatsu”とする予定である。

商店街交流施設事業は、商店街のなかで3階以上の活用可能な物件をリノベーションして交流スペースとして整備し、若者や異業種の人々の交流スペースとして提供するものである。交流スペースは24時間対応できるため、1日がかりの会議や夜間しか集まらない方々も活用できる。また、簡易ながらもトイレ・シャワーも整備しているため、会議のみならず宿泊も可能であり、将来的には街中居住のモデルハウスとなるものである

引き続き、意見交換を行い、委員から、「バーチャル商店街事業については全国でも非常に注目されており、成功を期待している」、「商店街交流施設事業は、商店街に若者を呼び込むことが商店街の活性化の重要なキーとなる」、「高松の商店街が活性化するためには北と南の両方の核がしっかりと働く必要がある」等の意見があった。